

第7日

令和5年9月6日（水）

午後3時20分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、9番加藤正二議員の質問を許可します。9番加藤正二議員。

（9番加藤正二君登壇）

○9番（加藤正二君） 皆様、こんにちは。9番加藤正二でございます。

本日はお忙しい中、傍聴に来ていただいた皆様、インターネットで御覧の皆様、ありがとうございます。

さて、今年の梅雨は、全国的に甚大な被害をもたらしました。朝倉市も7月10日の豪雨では、幸いに人的被害はなかったものの、甚大な被害を被りました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

温暖化の影響、異常気象だと言われておりますが、異常気象は、もう今や異常ではなくなっているようにさえ感じます。線状降水帯という言葉が気象情報のたびに聞きますと、もう心配でなりません。これも全て大自然の中の自然現象ですから、どうすることもできないとは分かっておりますが、対策をするしかないと思っております。

台風の場合は、自宅を守るため多少はできますが、豪雨の場合は、避難所へ避難するか、少しでも高いところへ逃げるしかできません。市民の皆様が少しでも安心・安全を感じられるよう、対策をお願いするしかありません。

本日も豪雨から地域を守るための対策について質問させていただきます。以下、通告書に従い質問席より質問を続行させていただきます。よろしく願いいたします。

（9番加藤正二君降壇）

○議長（小島清人君） 9番加藤正二議員。

○9番（加藤正二君） 通告書に従いまして質問を行いたいと思います。

蜷城地区の豪雨対策についてであります。蜷城地区の内水対策について、まず桂川の排水能力を高めるための床島用水の活用についてであります。

桂川の排水能力を高めるための要望は何度となく行ってまいりました。一步でも近づくように今後も質問及び要望をさせていただきます。

桂川の改修工事も最下流を少し残し、ほぼ完了いたしております。今年の豪雨では桂川からの越水はなかったと聞いております。工事関係者の方々、福岡県の担当職員の方々には大変感謝をいたしております。本当にありがとうございました。

河川が広くなり、河床が低くなっている分、流量は増えたように感じます。新桂川水門では心配でありませんでした。水深6メートル近くになり、田島地区の遊水地にも流入が始まり、効果はあったと思っております。

同じ時期に新桂川水門のすぐ上流の床島用水のほうにも流入が始まり、大量の水が床島

用水に流れ込んでいきます。あの水の量を見ていると、桂川の排水能力を随分高めていると感じています。利水と治水とは役割が違うから難しい。床島用水の管理は床島堰土地改良区だから難しいとは聞いております。

しかしながら、床島用水の取水口は朝倉市の長田にあります。床島用水は、桂川の下をサイフォンで抜け、さらに筑後川の堤防の下を抜けて流れていきます。この場所に床島用水第2樋管の水門があります。この水門は過去一度も閉めたことがないそうです。逆流が発生していないということです。今年も床島用水に流入が始まって、1時間ほど経ちまして床島用水を見に行きますが、床島用水は十分に余裕があります。床島用水第2樋管から500メートルほどの先の暗渠の前で、左岸の方向の筑後川本川へ排水されます。これは今も佐田堰と言うはずで。

用水本来の役目は、この暗渠を通過してからであるとは私は思っております。新桂川水門のすぐ上流の右岸の床島用水のところに遊水池と同じように流入口を設けてもらえれば、随分、排水能力が上がると思われま。現在は築堤されており、その堤防を越水して流入してきます。

目的の違いや財産管理者の違いもあり、専門的知識も必要だから、国と県との間で今後、研究していきたいと、4年前の一般質問したときに答弁をもらっておりますが、国と県との間で研究なり協議はなされたのかお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 筑後川の片ノ瀬観測所の水位が既往最大水位というふうになりました令和2年7月の10.52メートル。それから平成29年7月九州北部豪雨の10.36メートルに次ぐ、今回7月10日の10.25メートルになる中での桂川の洪水でございましたが、堤防のかさ上げ対策や改良工事が行われていたために、河川からの溢水、越水は避けられたと朝倉市では認識をしております。

その際、水門上流右岸から床島用水に洪水が流れ込んでいたという事実は、朝倉市のほうでも認識をしておりました。桂川を管理します福岡県に対しまして、床島用水への洪水の流れ込みを含めて、今回、7月10日の洪水と河川の改良復旧の効果を検証してほしい旨を申し込む予定でございます。

令和元年12月の定例議会で一般質問され、執行部が答弁した国と県との間での研究や協議につきましては、堤防かさ上げと改良復旧の効果を検証した上での協議という位置づけになってございました。堤防かさ上げと改良復旧がほぼ完成した段階での今回、7月10日、洪水を経験しておりますため、福岡県の効果検証作業を待った上で、さらなる治水能力向上の必要があると判断された際には、床島用水への分流の可能性につきまして、流域治水という枠組みで関係機関との協議の枠組みを検討していきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 9番加藤議員。

○9番（加藤正二君） 私が言うております床島用水は、暗渠の前までは用水路ではなく、筑後川の分流の川だと思います。昭和30年代頃は、私、子どもの頃ですけども、川だったし、橋も架かっていて、遊びに行っていたと記憶しております。

その暗渠の前までの川に桂川の排水を流出したら、随分と排水能力は上がると思っております。関係機関との研究、協議を進められるようお願いいたします。これもう毎年毎年そういうことでは、できるだけ何回も早めに協議をしてもらって、次の対策を考えてもらおうと。もしかして、あそこが本当にそういうふうに流れていないならば、下流のほうでは、最下流は越水したのではないかというほどの排水効果があると思っております。

なお、現地は、市の職員の方に同行してもらいまして、流入した床島用水のサイフォンの上にごみが流れた後ですから、ごみが樹木とか金網とかに引っかかっておりますけども、その上のごみがたまっている現場を歩いて確認していただいております。どうぞ先ほども言いましたように、できるだけ早い時期の何回もの協議を重ねていただきまして、随分あれで桂川流域全体が助かるんじゃないかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、内水対策と長田川の排水についてであります。

7月10日早朝5時半頃に、下長田の新桂川水門に私は行きました。その途中で排水路があります。これは2号幹線と言いまして、この2号幹線は桂川に排水をしております。もうこのとき既に桂川の水位が上がり、逆流しておりました。もう田んぼの中にどんどん逆流して入っておりました、水がですね。直後に水門管理者の方が、2号幹線の水門を閉めに行かれました。後は、水量は増すばかりで、夕方近くになって桂川の水位が下がり、やっと開門して内水の排水が始まりました。

7月3日の雨のときも桂川の水深は、10日と違って5メートルぐらいでした。しかし逆流が始まり、内水氾濫してしまい被害を受けております。長田地区の内水は、桂川か長田川に排水するしかありません。しかし、桂川の水位が上がれば、水門が閉まります。長田川は、長田川の床島水門が閉まれば、桂川に流れるしかありません。長田川の桂川への流出口は、フラップゲートになっており、桂川の水位が上がれば、行き場がなく内水氾濫に至ってしまいます。

今回の豪雨は、内水による農地の冠水だけでなく、道路の冠水もありました。長田地区はもちろん、鶴木地区、福光地区、甘木・田主丸線の上畑地区、この幹線は一時通行止めになりました。

私は、内水対策については、長田川の問題として何回も質問し、要望してまいりました。県による長田川の管理もあまりされていないように感じます。

昨年、長田川の内水対策については、福岡県土整備部、農林水産部、朝倉市などと連携し、協議を行う必要がある。佐田川の築堤工事に先立って、長田川サイフォン周辺の整備方法について強く要望していくと答弁をされました。その協議の途中経過なり、進捗状況

なりを教えてください。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） お答えいたします。

農地のこの内水対策につきましては、その軽減策として長田川の排水能力を高める方法を筑後川河川事務所、県土整備事務所、朝倉農林事務所、朝倉市の関係課が一同に集まりまして、6月にまずは勉強会を開催したところでございます。その後、7月10日の豪雨がありまして、この勉強会は中断しておりますが、朝倉市としましては、流域治水の枠組みで、この関係機関と引き続き連携し、長田川に注目した軽減策を強く求めていく考えでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 9番加藤議員。

○9番（加藤正二君） 結局まだ1回しか協議は行っていないということになりますですかね。長田川の件に関しましては、本当に4年前から、こう質問をしておりますけれども、なかなかそれは難しいとは思っておりますが、できるだけ早い時期に。私が思っておりますのは、後でもお話ししますが、筑後川水系河川整備計画の中に織り込まれております佐田川河川整備計画の、先ほど言いました長田川のサイフォンー帯を見直すというのに何とか方法が出てくればいいなど、今のまんまちょっと穴を掘りますとか、深くしますだけじゃ解決しないんじゃないかと思っておりますので、そこいらは何回も詰めてもらって、いい返事をもらえるような形をお願いしたいと思っております。

それと、その内水氾濫が頻発しているこの長田地域には、農業集落排水施設があり、平成29年の九州北部豪雨のときは浸水し、一時使用不可となりました。約500件の世帯に支障を来しました。今年も心配しましたが、ぎりぎり被害を逃れました。この農業集落排水施設の浸水対策も検討してもらわねばと思っております。約500件の世帯の生活に支障を来すと大変なことになりますので、対策のほうをお願いしたいと思っておりますけれども、どんなでしょうかお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） この蜷城地区の農業集落排水施設。これは下長田地区に処理場が1か所、そして、管路の途中にマンホールポンプ場が17か所、管路の延長が全部で27.7キロメートルという、こういった施設で汚水処理を行っております。

平成29年の九州北部豪雨では、長田地区が浸水いたしましたが、この農業集落排水施設については、処理場の浸水被害はなく、処理を行うことはできておりました。

しかしながら、処理場へ汚水を送水いたしますこのマンホールポンプ場の電気制御盤が6か所浸水いたしまして、機能不全というふうになり、汚水処理ができなくなっております。

しかしながら、翌日には仮復旧を行いまして、汚水処理が可能になったという状況でございます。

また、この当時の浸水対策としましては、浸水しましたマンホールポンプ場の電気制御盤の設置位置を、この浸水実績を基に、それ以上の高さを確保できるようにかさ上げ工事を行っております。

その後、桂川の堤防のかさ上げと改良復旧が行われておりまして、桂川の治水能力というものは向上をいたしております。内水対策につきましては、軽減策を引き続き模索していきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 9番加藤議員。

○9番（加藤正二君） 生活に大事な——入らなきゃいいんですけども、いつもそのぎりぎりのところで溢れてきますので、そこいらもぜひとも早く何か対策を練ってもらいたいと思っております。よろしく願いいたします。

それと、筑後川の水位を下げる対策についてですが、私は、昨年的一般質問でも、近年の豪雨に伴う洪水では、筑後川の河川水位を急激に上昇させていると感じている。筑後川本線での抜本的な対策が必要ではないかと質問しました。

前回の6月議会では、熊本議員も筑後川の河川水位の上昇が顕著であり、上流域での洪水の制御が必要ではないかと質問されてありました。

市長の答弁では、第18回水害サミットに筑後川中流域の首長として参加され、上流域での洪水流出の制御を望んでいる。しかも、玖珠川という固有名詞を出して、公の場で発言したとお聞きいたしました。何と心強い発言であろうかと感謝いたします。ありがとうございます。

しかしながら、上流域での洪水の制御には、長い年月がかかるものと思われまます。将来的には、筑後川流域の災害が軽減され、住民の皆さんは安心して生活できるものと思っております。将来も大事であります、目の前の現実から目をそらすことはできません。毎年のように発生する豪雨災害は不安でなりません。

今年の7月10日の筑後川の水位がなかなか下がらず心配しました。桂川の水位は、筑後川の水位より少し高く排水はなされておりますが、筑後川の水位が下がらなければ排水能力は低下します。筑後川の水位を下げるのが一番重要ではないかと思っております。

朝倉市の河川のほとんどは、筑後川に排水されると思っております。筑後川のしゅんせつを行ってもらえれば、朝倉市のほとんどの河川の排水能力は高まり、内水氾濫は軽減されると思っております。国土交通省には、しゅんせつを推進してもらおうよう、強い働きかけをやってもらっていると思っておりますが、現在の進捗状況をお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 筑後川の河川水位の上昇が顕著であるというふうに認識をしております。筑後川の河川水位の上昇対策として、上流域でのさらなる制御が必要であるとの認識の上で、その働きかけを行っていきたいというふうに考えております。

また、河川管理者には河川に堆積しております土砂の計画的なしゅんせつをお願いして

おりまして、その努力がなされているところでございますが、この点については、引き続き、しゅんせつの促進を求めていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 9番加藤議員。

○9番（加藤正二君） しゅんせつが行われれば、本当に各河川の排水は、能力が全然違ってくると思っております。ぜひそっちのほうも強く働きかけて、少しでも早く進むように。これは恐らく筑後川流域の皆さんたちはそういうふうに思っていると。筑後川を見てもらうと分かりますけども、あれだけ毎年毎年の豪雨によって、随分、堆積土砂がたまっている箇所があります。もちろん目立たないところもありますけども、あれを取ってしまうと、本当に随分、排水能力が高まると思っておりますので、よろしく願いいたします。

筑後川流域の住民の方々には本当にしゅんせつを望んでおられると思っております。筑後川本川の水位が下がれば、先ほど言いましたけども、支川の排水能力は上がると確信しております。せめて関係する河床のしゅんせつを推進してもらおうよう、ぜひ強くお願いをいたします。

それと最後になりますが、佐田川の河川整備計画の現況についてお尋ねいたします。

7月10日の豪雨の際、寺内ダムの緊急放流をする旨の防災無線が流されて、佐田川流域の方々にはびっくりされたと思います。

9時50分に放流が開始され、その1時間半後ぐらいに、床島の佐田川橋、桂川橋に行きました。水量はもちろん増えておりましたが、大事に至らず安心いたしました。佐田川河川整備計画の中の築堤が完成すれば、住民の方々の安心感は随分増すだろうと感じました。佐田川河川整備計画の調査なり協議なりがどれぐらい進んでいるものなのか、その進捗状況をお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 筑後川水系の河川整備計画につきましては、令和4年9月に変更されまして、佐田川につきましては、河道の流下能力向上のため、堤防の高さ、それから幅、河道断面が不足し、洪水を安全に流下させることができない箇所の堤防のかさ上げ、それから拡幅、河道掘削などが、国土交通省の河川事務所で予定されているところでございます。

この事業の背景としましては、平成29年7月の九州北部豪雨を経験した朝倉市が、気候変動による豪雨の頻発を想定しまして、国土交通省に強く働きかけをしたところ、国土交通省によりまして、河川整備計画が昨年の9月に変更されまして、佐田川の河川整備が事業化をされたというものでございます。

具体的な箇所を申しますと、堤防、築堤ですね。堤防のかさ上げが、小田地区の小田橋上流が1か所、それと河道の掘削が3か所、場所につきましては、金丸橋の下流にあります小隈、屋永橋下流の屋永、それから板屋橋下流の板屋地区の3か所が河道掘削として予定をされているところでございます。

また、今年度の進捗状況でございますけれども、今年度は、工事着手に向けた調査の設計が行われるというふうに聞いております。

直近では、関係をします地域のコミュニティに対しまして、今ある既存の佐田川の堤防付近の地形把握のためのドローンを用いた測量実施、それから河川内での測量について、筑後河川事務所から周知案内がされているというふうに聞いているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 9番加藤議員。

○9番（加藤正二君） 佐田川の河川整備計画、これは災害の河川整備計画ではありませんので時間がかかるとは思っておりますけれども、私が一番気になっているのは、先ほども言いました長田川からサイフォン——暗渠とかこの間、言われましたけれども——暗渠を通過して、佐田川の下をくぐって流れていくと。この暗渠は、今、本当に効果を発揮しているのかなあと非常に私は疑問に思っておりますので、今度の佐田川の河川整備計画では、そこいらを一体的に、総合的に。あそこは本当に複雑なんですよ。こちらの床島用水は佐田川の下を、これも暗渠か何かでくぐっている。長田川は佐田川の下ということで非常に複雑なところを、今度そういうふうな佐田川の河川整備計画が実施される予定であれば、この設計の段階——設計が決まってしまうと、もうなかなか難しいと思うんですけれども、十分にそこいらを調整されて、長田川の排水があんなにたまる前から佐田川に流れていくように、本当に昔、あそこにも二本三本、床島用水に流れる排水路がありましたので、今、床島用水で堤防ができておりますので、その排水口もなくなっておりますけれども、今度の佐田川の河川整備計画では、その長田川を中心とした床島用水も含めた一体の計画がなされるような要望をしていただきたいと思っております。そうすれば、今、私は、長田川は本当に機能していないんじゃないかなという気がします。長田川というだけで、本当に整備もなかなかされておられませんし、床島のほうですぐ水門が閉まればこっちなんです。ただ、平成29年にあそこがフラップゲートになりましたので、桂川が流量は増えておりますので、もう全然、排水になりません。そしたら、もう内水が氾濫するばかりですので、そこいらを佐田川の河川整備計画では、重点的に交渉なり協議されるときには、そこいらを強く要望していただきたいと思っております。どうぞ、交渉とか協議、いろいろあるとは思いますが、何回もしてもらわんと、先ほど聞きましたけれども、4年前のが今頃じゃ、一歩も進んでいないと思っておりますので、半歩でも一歩でも進むように協議を重ねていただいて、できるだけ近づけていただきたいと感じております。どうぞよろしく願いいたします。

私の一般質問は、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 9番加藤正二議員の質問は終わりました。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は、7日午前10時から行い、一般質問を続行いたします。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。
午後 3 時 57 分散会